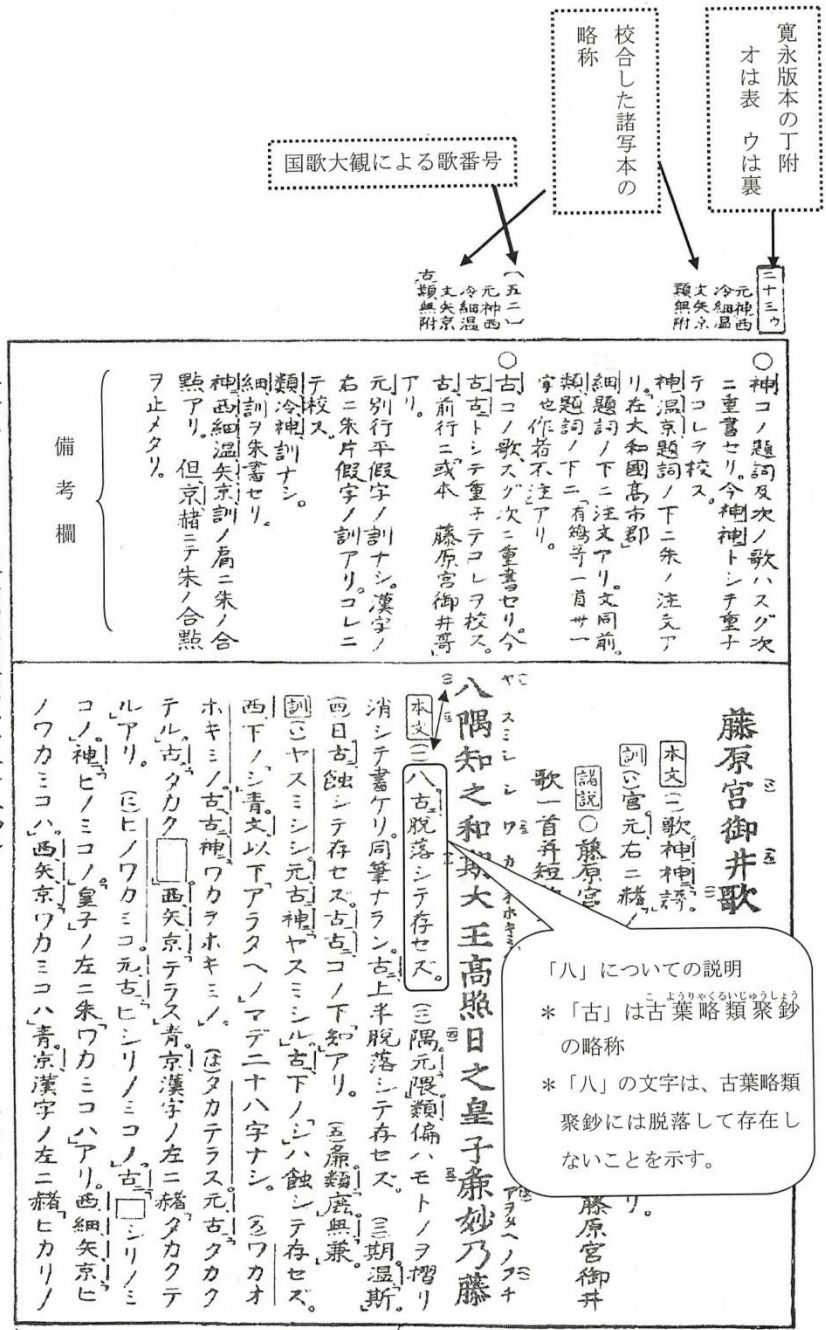
万葉図書・情報室だより34号

校本万葉集　―使い方・見方―

前号でご紹介した『校本万葉集』は、いろんなアクシデントを乗り越え、佐佐木信綱氏を中心に多くの万葉集の研究者によって、大正十三年に刊行されました。

20種の諸本を校　合（きょうごう）（他の本との違いを書き出すこと）し、24種の註釈書を諸説にまとめています。こんなにもたくさんの情報を集約した手書きの『校本万葉集』の一部分をご覧ください。

＊図書・情報室には、『校本万葉集』全二十一冊（平成六年～）を所蔵しています。



○新着図書案内○

☆和歌史のなかの万葉集
（阪下圭八／笠間書院）

☆万葉時代婚姻の研究
（栗原弘／刀水書房）

☆宮都飛鳥
（奈良県立橿原考古学研究所）

☆都はなぜ移るのか
（仁藤敦史／吉川弘文館）

☆飛鳥の木簡
（市大樹／中央公論新社）

☆藤原宮木簡一・二
（奈良文化財研究所）

☆色へのことばをのこしたい
（伊原昭／笠間書院）

☆若冲画譜　明治二十三年の複製
（伊藤若冲／美乃美）

利用案内

開館時間―午前十時～午後五時半

休　館　日―水曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です

閲覧でのご利用になります。

コピーサービス　白　黒一枚　10円

カラー一枚　50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇

〇七四四―五四―一八五〇（代）